

「新型コロナウイルス感染症で鎮静が必要だった患者さんの 血清クレアチニンに与える影響の調査」

へのご協力をお願い

1. 研究の背景と目的

薬物療法において腎臓は体外排泄の重要な経路であり、主に腎臓から排泄される薬物では投与量を調節する必要がある。しかし 長期臥床患者では血清クレアチニンが低値となり腎機能が評価できないことが散見される。その要因については様々な要因が考えられるが、鎮静により臥床へ移行することで、内因性クレアチニンが減少し血清クレアチニンの低下につながると考えられる。臥床における血清クレアチニンの推移、患者背景、検査値変動などを観察することで、個々の血清クレアチニン低値の要因を考慮した腎機能を推算することができる。その要因を考慮した腎機能評価ができることにより、有効で安全な薬物療法が実践できる。

2. 研究対象者

令和2年4月～令和3年10月の間に、山口県立総合医療センターにCOVID-19で入院し鎮静が必要だった患者さんを対象とします。

3. 研究の方法

入院患者数と入院期間、入院目的、入院中の年齢、性別、身長、体重、臨床検査値について診療録を用いて後方的に集約し、調査します。

4. 臨床研究を実施することにより期待される利益および予想される不利益

本研究は既存情報を用いた研究であり、直接的な利益は生じません。しかし、研究成果により今後業務改善され、将来の医療の進歩に貢献できる可能性があります。不利益に関しては、研究対象者に対して介入を伴うことがないため、不利益は生じません。個人が特定されることのないよう情報の取扱いに配慮します。

5. 同意と拒否

本研究の実施についての情報を山口県立総合医療センターのホームページに公開することにより、直接の説明や同意をいただく手続きに代えさせていただきます。対象者に含まれていると考えられ、本研究に同意をいただけない方は担当者までご連絡ください。

6. 担当者

施設名：山口県立総合医療センター（代表：0835-22-4411）

責任者：薬剤部 主任 磯部 邦彌